

(22) 海底プラスチックごみの実態把握及び 回収効率の推定に係る手法・技術の開発

予算

環境研究総合推進費

概要

底びき網は海底ごみを回収する重要なツールであり、大阪湾においても底びき網漁業者による海底ごみ回収が行われてきた。これまで大阪湾における海底ごみの組成等については報告があるが、堆積量を推定する際に必要な底びき網による海底ごみの採集効率については明らかにされていない。本研究では底曳網における海底ごみの採集効率を推定するため、底びき網（石げた網）による繰り返し曳網試験を行った。

2023年6月に堺泉北港、7月に関西空港地先（採捕禁止区域）で試験操業を行った。ハンディGPSで漁船位置を確認しながら、石げた網（幅1.7 m、爪42本、爪長さ24 cm、コットエンド11節）2丁を可能な限り同じ場所で繰り返し曳網した（堺泉北港15回、関空地先17回）。爪に掛かった試料と袋網に入った試料を区別して持ち帰り、海底ごみは環境省による分類リストを元に種類別に、生物は種別に分け、採集数を計数した。

担当者

大美博昭